

3 <sup>けんほんちやくしよくしや か じゆうろくぜんしんぞう</sup> 絹本著 色釈迦十六善神像 1面 [有形文化財（絵画）]

[所在地] 明日香村岡

[所有者] 岡寺

[法 量] 縦106.6cm 横58.8cm

[時 代] 南北朝時代

[概 要]

釈迦十六善神像は大般若經の  
<sup>てんごく</sup> 転読において本尊として用いら  
 れた画像で、本図は明日香村の  
 岡寺に伝来した。釈迦を中心に  
<sup>げんじょうさんぞう</sup> 玄奘三蔵や<sup>じんじやだいしやう</sup> 深沙大將を表わす  
 内区と、<sup>かつちゆう</sup> 甲冑を着た十六善神を  
 整然と配置する外区からなる<sup>まん</sup>曼  
<sup>だら</sup>荼羅的な構図は大変珍しく、他  
 に類例がない。

図様全体に<sup>きんてい</sup>金泥や<sup>きりかね</sup>截金を用い  
 繊細な装飾を施すほか、全体に  
 裏面からも彩色を施し、部位に  
 応じて異なる彩色を用いるなど  
 非常に丁寧に仕上げられている。  
 釈迦がまとう衣は縁や裏面まで  
 明確に描き分け、玄奘三蔵が背  
 負う<sup>おい</sup>笈に積まれた経巻を一点ず  
 つ表わすなど図像の細部も入念  
 に表現されている。

比較的目の細かい<sup>えぎぬ</sup>画絹を用い  
 る点やのびやかな墨線、繊細な  
 装飾技法などから、制作は南北  
 朝時代と考えられる。

本品は、珍しい曼荼羅的図像  
 を示す釈迦十六善神像の遺例と  
 して高い価値をもつ。

